

12/17自然環境保全審議会本審及び第1回生物多様性地域戦略改定検討会における委員発言概要

【本審】

テーマ	意見	発言者
地域戦略改定方針に関すること		
都の他計画との関係	長期戦略ビジョンとSDGsとの関係について確認したい	古城委員
生物多様性戦略の検討範囲	「緑」ではなく「生物多様性」をタイトルに打ち出すべき	佐野委員
東京の地域区分の考え方	自然の観点から科学的に東京の区分を検討すべき	
テーマ別検討に盛り込むべき内容		
農地	生物多様性という観点からも農地保全は大事だという観点を入れていただきたい	保坂委員
グリーンインフラ	グリーンインフラの観点を議論に加えていただきたい	
自然環境情報の収集	自然のデータの蓄積が生物多様性戦略には必要	佐野委員
	自然史博物館のような情報の発信拠点、実行性を担保する仕組み・体制を検討すべき	森村委員
街路樹・公園	街路樹や公園の樹木について、どういうあり方がふさわしいか議論していただきたい	里吉委員
関係団体との連携		
区市町村	2年前に策定した世田谷区の地域戦略を参考にしていきたい	保坂委員

【第1回改定検討会】

テーマ	意見	発言者
地域戦略改定方針に関すること		
東京のプレゼンス	来年はオリパラとCOP15の開催年。検討会では、戦略の中身だけではなく、作る過程を都民や世界にどう発信するか、次のプレゼンスの向上の議論も重要。その過程によって新戦略の意義が変わる。シンガポールに差を縮められているのではなく、追いつかなければならない状況。	一ノ瀬委員
世界の中における東京	国際的な視点が全く欠けている。企業の参画を促すためには、SDGsの視点を持って国際的にも意味があることを位置づけるべき	石原委員
	生物多様性の持続可能な利用について、グローバルサプライチェーンの中での大消費地としての都民に対する啓発やSDGsの他の課題につなげていくべき	原口委員
日本の中における東京	国際的な視点とともに、第五次環境基本計画で記載している地域循環共生圏の視点で、東京都が日本の中の地域との循環についても考える必要がある。	荒井委員
東京の地域区分の考え方	東京をエコリージョンに分けて整理することで自治体を横断的に見ることができ、東京都らしさを記述することができる。また、東京は市街化が最も進んだ地域であり、社会学的側面もエコリージョンに加味することで広い視点で検討ができる。	須田委員
将来目標の設定	各施策をいつまでに実行するのか盛り込めたらいい	佐伯委員
	都内の保護地域面積、レッドリスト種の割合、子供の生きものへの親近感や自然への触れ合いなど目標に入れられたらよい	
東京らしい施策の打ち出し	具体的かつ実効的なものにするため、その地域らしさが出ていて、具体性が伴っている必要がある。まずは環境局だけでも施策を打てたらいい。	須田委員

テーマ別検討に盛り込むべき内容		
グリーンインフラ	生物多様性の概念をグリーンインフラに組み込んでいく必要がある	佐藤（留）委員
普及啓発	危機を認識してもらう必要がある一方で、東京には人口密度の割に自然が豊富である現実を知ることが大事	鈴木部会長
	困難を克服する上で、まずは理想形は何かから議論ことが大事。実現のためには、正しい知識による普及啓発と教育が重要。	辻委員
関係団体との連携		
区市町村	生物多様性は複雑でスケール設定も様々であるため、区市町村との連携が非常に重要。区市町村とは適切な時期にすり合わせをし連携することが重要	荒井委員
	都の地域戦略と区市町村の地域戦略の連携について確認したい	佐藤（留）委員
市民団体	保全活動をしている多くは市民団体の草の根の活動であり、市民団体との連携や支援の視点が必要	
都庁内各局	④「将来世代の育成」と⑥「気候変動への対応」は自然環境の部局を超えるため、関係局が連携した検討が必要	鶴田委員
緑施策の新展開の実績検証		
評価・検証	実際に施策をした結果、どういう結果だったのか成果と課題の整理が必要	佐藤（初）委員
	関係する施策の予算規模を整理していただきたい	
	「緑施策の新展開」で「東京のプレゼンスの回復・向上」が記載されているが、次回その結果を聞きたい。	一ノ瀬委員